物流 彼方此方（あちこち方）
第39回
長崎県
(有)長崎水産運輸

創業者の遺志を継ぎ「社員」と「お客様」に感謝

社員・顧客満足度を上げ、長崎水産業への貢献も

東京・豊洲市場へ「水産県長崎」の鮮魚・水産加工品を輸送する、同社主力の大型トラック。「トラック・車好き」のドライバーの手により、ピカピカに磨き上げられている

平岡　ゆかり
代表取締役

有限会社長崎水産運輸（平岡ゆかり代表取締役、長崎県長崎市）は、1年を通して長崎漁港へ水揚げされる豊富な海の幸を、新鮮なままスピーディかつ安全・安心に、日本全国の食卓へ届けることを使命としている。

同社では、経営の根本に「お客様への感謝の心」という理念を貫いているが、「社員に感謝」という理念も同等かそれ以上に重要視している。

お客様と社員への感謝という理念を念をベースに、輸送業務を通じて地元「水産県長崎」への貢献も目指す、同社の取り組みを紹介する。

(有)長崎水産運輸（平岡ゆかり社長）は、長崎漁港に本社を置き、その日の朝に水揚げされた鮮魚や五島列島で養殖されたマグロの成魚、および練り製品などの長崎県産品、また、養殖魚の餌を運ぶ、水産関連物輸送に特化した事業者である。

同社の輸送範囲は、協力事業者と連携して全国をカバーするが、輸送先のほとんどが九州圏内と東京都豊洲市場である。

同社は、平岡社長の父であり、創業者の平岡孝会長（故人）により昭和50年に創業された。平岡社長は平成22年、代表取締役に就任。順調に会社経営に取り組んできた。しかし、社長に就任して5年が経った平成27年、平岡会長が急逝する。

「父から『代表に』という話が来た時、普通なら、『自分に務まるか』と、不安になると思いますが、私は、子どもの頃から会社に遊びにくるなど、この会社が何より好きだったことで躊躇せずに受諾しました。父も自分が築いたこの会社が大好きでしたが、今思えば父の次にこの会社を思っていたのが私だったのでしょう。そういう純粋な気持ちで受けた話でしたが、実際には辛いことも多々ありました。また、運ぶものが『鮮魚』という昔ながらの男社会で、どこにいっても女性の私は社長と見てもらえないこともありました。そんな事情もあり、昔ながらの『運送屋』を、『運送会社』にしたいと思いました。

就任後、業界・企業イメージを変えようと、会社案内パンフレットを作り、ホームページを開設しました。社長業にも慣れ、会長との二人三脚が軌道に乗ってきたと思った頃、父は何の前触れもなく突然亡くなりました」（平岡社長）

同社は創業当時から、平岡会長の一本気で、豪快で、欲がなく、人を疑わず、誰とでも仲良くなる気質が幸いし、長崎漁業関係者等の多くの人にも恵まれ、順調に業務を拡大してきた。現在の社是である、『社員に感謝』『お客様に感謝』は、会長の口癖、『社員は家族』、『お客様は大切に』、『みんなで豊かになろう』、からきており、この言葉は、会長が残した『心の遺産』となって、今も同社に受け継がれている。

「会長であり、父という支えを突然失いました。この経験から痛感したことは、企業経営で最も大事なことは社員の「健康」であり、「仕事をするには心も体も健全でないといけない」ということでした。そして、社員が人として成長していくことを見守り、それを支えていくことが社長として一番大事な仕事だと気が付きました」（同）

小さい会社だからこそ経営改善に取り組む

平岡社長は、「小さい会社だからこそ、できることをすぐに」という方針で、積極果敢に経営改善に取り組んだ。情報収集や交友関係を広めるために参加していた異業種交流会で得た情報なども、「自社でも取り組める」「これなら導入したい」と思えるものを次々と吸収していった。ただし、実際に実行に移す時には、必ず定例幹部会に諮問し、全員の意見を聞いた。

「社員の健康を守るため、会社をよくするために自分の役割として何ができるのか自問自答しました。そこで分かったのは、『会社が社員を全力で大事にすれば、社員も会社を大事にしてくれる』はずということでした。そこで、社員の働く環境や条件を改善し、福利厚生面についても充実させ、退職金制度など一般企業並みを目指したほか、10年勤務ごとに家族旅行のための旅行券をプレゼントするなど、できる限りのことをしたいと考えています」（同）

食堂は毎日20人ほど利用する。元々、積み込み現場の裏にあった簡単なキッチンを改装して、調理場とカウンター式の社員食堂として利用している（写真㊧）。

「鮮魚輸送を行っている弊社の特権かもしれませんが、商品流通に乗らない、地場でおいしい魚が時折手に入ることがあったので、父がキッチンを用意し、ドライバーも現場作業員も集まって、皆で魚を捌いて食べるような文化があったことがベースになっています。当時、漁師の方が船の上で食べる『漁師飯』のようなものだったと思いますが、皆が和気あいあいとニコニコしていたのを覚えています。皆が美味しいものでお腹いっぱいになれば、必然的に仕事に前向きに取り組むことができると信じています」（同）

健康診断結果優良者は制服の色に違い

健康管理の基本はやはり定期健康診断で、毎年各人の健康状態を把握して管理することにある。

同社でも、定期健診の結果については丁寧にフォローしている。また、食品を扱う業種ということもあり、感染症にかかるとお客様に迷惑をかけることになるので、インフルエンザ予防接種は必ず全員に行う。

ここで、同社独自の、取り組みがある。健診結果でまったく問題がなかった、いわゆる「健康優良者」には、赤い制服が贈られるのだ。また、優良と判断された年数が2年連続では、会社のロゴマークの色がシルバーに、そして3年連続はゴールドになる。制服の色が紺色の同社で、赤い制服でロゴマークがゴールドであれば、「3年連続健診結果優良者」と一目で分かる仕組みだ。

乗りたいトラックをドライバーが選択

同社の車両購入方法もユニークといっていいだろう。平岡社長は、車両購入の際には、可能な限りドライバーの意見を反映させることにしている。

まずは、同社との取引のあるディーラーから好みを選択。ハイルーフ仕様など基本仕様は会社指定だが、外装部品の質やデザイン、キャビンの内装や色、ヘッドに載せる同社の看板のデザインなど、予算内で可能な限り、ドライバーに自由に選択してもらう。

「弊社のドライバーは、『カッコいいトラックに乗り長距離運行で頑張りたい』というような車好き、トラック好きが多く、普段から運行前後に自ら進んで洗車してピカピカに磨き上げるなど、とてもトラックを大事にしてくれます。各ドライバーの専用車なので、まるでマイカーに乗るかのようです。多少コストはかかりますが、ドライバーの気持ちを考えて、また、長い目で見ればこの方式の方がメリットが大きいと思っています。事実、綺麗なだけでなく、事故も高まむため、高校生以下の子どもがいる社員に4、5、6月の3か月間支給した。給与補填については、あるドライバーの奥さんが医療従事者で、感染拡大地域からの帰還者との接触があった場合は勤務できないことになっており、やむなく、ドライバーには一定期間、現場での積み込み作業に従事してもらった。このため、本来業務と比べ給与が下がってしまうので、同社ではその下がった分の7割を補填した。

「我々運送の仕事は、在宅勤務もリモートワークもできるというものではなく、ドライバー本人にはもちろん、家族に対しても大変申し訳ない気持ちでいっぱいでした。一人でも感染者を出してしまえば、荷主の皆様に多大な迷惑をかけることになり、それは絶対に許されません。しかし、ドライバーたちは不平不満も言わず、強い使命感で業務に従事してくれました。緊急事態宣言下では、地元、『水産県長崎』の産品を消費地へ届ける手段が、まさに我々の陸送しかなかった時期もあり、改めてトラック輸送の大切さを痛感しました。皆がそのモチベーションで仕事に取り組んでくれたおかげで、今まで乗り切ることができました」（同）

新型コロナ対策も社員第一で

一方、新型コロナウイルス感染症拡大禍は、同社の業務にも大きく影響を及ぼした。同社の主な輸送先は感染者数が最も多く、感染拡大が懸念されていた東京だったからだ。しかし、食料品を輸送する同社は、「ライフライン」として、輸送業務を休むわけにはいかない。

同社では、主なコロナ対策として、特別ボーナス・子ども手当支給、独自融資制度・給与補填を実施した。特別ボーナスは、全社員に感謝の意味を込めて、賞与を支給。また、子ども手当は、休校が続き食費など費用がありません。こちら側の都合だけでなく、発荷主さんや、豊洲側の着荷主さんでも、綺麗なカッコいいトラックで運んでもらう方が、安心で気持ちがいいはずです」（同）

事故を防ぐのに必要なのは精神的な余裕

平岡社長は、事故を起こさせないために会社が本当にとるべき対策とは、「社員が公私ともに、何も心配しないで仕事ができる環境づくり」にあると考えている。そして社員の不安を取り除くため会社の体制を整備し、社員を全力で守るという姿勢を示すことだという。

「社長に就任して今年で10年経ちました。父とともに歩んだのが5年で、1人になってからが5年。がむしゃらに突き進んできましたが、この5年で気が付いたのは、何事も最初からうまくいくものはないということで、できない理由を探すのは簡単ですが、できる理由を探して創り上げていくことの方が数倍難しく、そして大事であるということです。父が残してくれた『心の遺産』と社員がいたから、これまでやってこれたのだと思いますが、今だからこそ父に聞きたかったことがたくさんあります。そして、これからも、社員と会社を守り抜くために何をすべきか、父に、そして自分に自問自答し続けたいと思います」（同）

「心と体の健康」こそが安全・安心に繋がる
社員の人としての成長を見守るのが社長の仕事

企業概要

(有)長崎水産運輸
［代表取締役 平岡　ゆかり］

本　社	長崎県長崎市京泊3丁目15番6号
創　業	昭和50年10月20日
資本金	500万円
従業員数	26人(うちドライバー17人)
車両数	22台

長崎水産運輸㈱　検索